

3. 利用可能な病状の範囲

◆入室ができない場合(病気の回復期にあたらなため)

- (1)熱の場合(一般的な風邪等)
- ・37.5℃以上の熱がある場合
 - ・咳のため呼吸困難がある場合や、活気がなく、ぐったりとしている場合
- (2)嘔吐・下痢・胃腸障害の場合
- ・激しい腹痛、頻繁におこる下痢、嘔吐の場合

◆入室ができる場合

- (1)耳鼻科関係の場合
- ・「医師連絡票」があれば入室ができます。
- (2)外傷の場合
- ・骨折、縫うようなケガの場合でも、「医師連絡票」があれば入室ができます。
- (3)感染症の場合(具体的な目安は次のとおりです)

病名	病後児保育が可能な目安
麻疹(はしか)	解熱後 3 日を経過しているが、集団保育に不安がある
風疹(ふうしん)	発熱がなく(37.4℃以下)、発疹出現後、3 日以上経過している
水痘(みずぼうそう)	新しい水疱の出現が概ね見られず、おおよそ痂皮化(かさぶた)が始まっている
流行性耳下腺炎	発熱がなく、耳下腺の腫脹がほぼ消失し、食事摂取可能
溶連菌感染症	抗生物質服用中だが、解熱し、一般状態が安定している
突発性発疹	解熱し、診断が確定している
ヘルパンギーナ	解熱し、食事摂取可能
とびひ	適正な治療がなされ、ほぼ軽快している
百日咳	特有のレプリーゼが減少し、一般状態がよい
流行性角結膜炎	眼脂・流涙およびリンパ腺腫脹がほぼ消失している
急性出血性結膜炎	眼脂・流涙が消失している
咽頭結膜炎 (プール熱)	発熱がなく、眼脂・流涙が軽快している
急性気道感染症	発熱がなく、咳そう著名(咳が顕著にあらわれる)でなく、一般状態が安定している
嘔吐下痢症(細菌性のものを除く)	嘔吐がなく、かつ、下痢症状が軽快傾向にある
インフルエンザ	発熱がなく、主要症状が軽減している

(4)その他

・特別な病時食や献立が必要な場合は入室できません。ただし、お弁当で対応できる場合は入室ができます。また、入室は申込み順になります。種類が違う感染症が重なった場合や、お子様の症状等により利用困難と判断した場合は利用できません。